

「富山県食品ロス削減推進計画(概案)」に対する意見募集の結果の概要

<募集期間>

令和2年2月18日(火)～令和2年3月10日(火)

<意見の提出方法>

郵送、FAX、県ホームページのパブリック・コメント専用フォーム

<ご意見総数>

19件

<ご意見の概要及び対応案>

	ご意見の概要	県計画案への反映等	関連頁
1	食品ロスと食品廃棄物の違いがわかるようにすべき。	<u>食品ロスと食品廃棄物の違いについて、注記を追加。</u>	2
2	食品ロス削減により期待される効果について記載してはどうか。	<u>食品ロス削減により期待される効果を追加。</u>	1
3	消費者と事業者の双方が連携して取り組んでいくことが重要であり、「事業者の役割」の箇所にも、消費者と連携協力して社会全体で食品ロス等の削減が推進されるよう努める旨を記載すべき。	<u>事業者の役割に、消費者と連携協力して取り組む旨を追加。</u>	17
4	これまで取り組んできた団体の取組みを拡大することで、食品ロス削減の大切さや地球温暖化防止への関心を高めていきたい。	関係団体と連携しながら、団体の先進的な取組事例を県内に普及啓発するなど、食品ロス削減の取組みの拡大に努めていく。	10 12 19
5	食生活改善推進員などを中心に、市町村における活動を推進することが重要。	市町村及び関係団体と連携しながら、取組みを進めていく	10 12 19
6	食育と連携した取組みの推進が重要。幼稚園、保育園で食品ロスについて啓発することで、子どもから親、祖父母へ波及効果が期待できる。	子どもやその親を中心とした若い世代に対しての重点的な普及啓発を行う旨を記載しており、取組みを推進していく。	13
7	冠婚葬祭の引き出物の見直しや計画的な外食の実践など、家庭における食品ロスの削減を推進することが重要。	今後の具体的な施策を実施していく段階において、参考にしながら、取組みを進めていく。	11 14 17
8	県内の家庭系食品ロスは、全国に比べて手付かず食品が多いことを周知啓発し、「使いきり3015」の徹底等により、手付かず食品の削減を推進することが重要。	手付かず食品の削減を推進する旨を記載しており、取組みを進めていく。	14 17
9	サルベージ・サポーターとして活躍できる人材を育成するなど、サルベージ・パーティの開催拡大が重要。	サルベージ・パーティの開催拡大や定着を図る旨を記載しており、取組みを進めていく。	14
10	「食品ロスモニター調査」に参加した経験から、水分を少なくすることで、食品ロスの重量を削減できることを学んだ。家庭における食品ロス削減の具体的施策として、各家庭で定期的に食品ロスの重量を計測する参加型の事業を取り入れてはどうか。	今後の具体的な施策を実施していく段階において、参考にしながら、取組みを進めていく。	11 14

11	消費者が日常の買い物の際に、消費・賞味期限の近い食品から優先して購入するという行動が当たり前のこととして定着することが大切である。推進施策に、消費者の「買い物のマナー」を記載してはどうか。	今後の具体的な施策を実施していく段階において、参考にしながら、取組みを進めていく。	14
12	規格外農林水産物の有効活用を推進すべき。	生産者の役割として、加工品への利用やフードバンク活動への提供など、規格外農林水産物の有効活用について記載しており、事業者への取組みの周知に努めていく。	17
13	県内では少子高齢化、核家族化等が進んでおり、小容量販売やばら売りの導入など、販売方法の改善が必要ではないか。	小売業者の役割として、小容量販売・バラ売りの導入など消費者が購入量を調節・選択可能な方法を導入する旨を記載しており、事業者への取組みの周知に努めていく。	18
14	ホテル業界の方から、宴会時の3015運動はなかなか進まないと聞いた。宴会の主催者から、今から食べようとは言いにくいので、啓発用三角柱のテーブルへの配置を呼びかけるキャンペーンなど、参加者が分かりやすく目に見えるような施策が効果的と思う。	今後の具体的な施策を実施していく段階において、参考にしながら、取組みを進めていく。	15
15	外食の際に、お客から「ご飯は少なめ」と申し出やすい雰囲気をつくることが重要。	消費者が食事量を調節・選択できるメニューの導入を促進する旨を記載しており、取組みを進めていく。	15
16	フードバンク活動やフードドライブ、こども食堂等の実施主体と連携した未利用食品の有効活用を進めれば、かなりの食品ロスの削減効果が期待できると思う。	今後の具体的な施策を実施していく段階において、参考にしながら、取組みを進めていく。	11 16
17	計画は、分かりやすい内容の指標を設定し、進行管理することが有効である。	評価指標を用いて施策の進捗状況等を把握し、適宜、計画の見直しを行うなど、適切な進行管理に努める。	20 21
18	評価指標「県民1人1日当たりの食品ロス発生量」の目標値について、中間年(2025)と目標年(2030)に「2030年までの半減を目指して減少させる」と設定しているが、表現をもう少しわかりやすくしてはどうか。	目標値は、国の「家庭系・事業系食品ロスともに、2000年度比で2030年度までに食品ロス量を半減させる」という目標を参考に設定している。必要に応じて、計画の中間年に目標値の見直しを検討する。	20
19	具体的な施策は、年度ごとに重点を決めて、メリハリをつけた事業展開をすべき。	今後の具体的な施策を実施していく段階において、参考にしながら、取組みを進めていく。	12 ～ 16